京交山岳部報

No.295　　'77 5月号

〔第１１２６回例会〕　山村名誉部員還暦お祝い登山

五蛇ヶ池山　（T）

日　　時　5月3日（祭）～4日（水）　10時みぶ交通局前集合

コ　ー　ス　京都東ー関ヶ原ー広瀬ー大谷川…五蛇池峠…五蛇池…五蛇池山

担 当 者　本局　宮後正樹（TEL 251）　1/2.5万図「美濃広瀬」

備　　考　前月号でもお知らせしましたように、名誉部員山村敏郎氏の還暦をお祝いして、同氏の干支にちなんだ五蛇ヶ池山に登ります。ヤブがなかなか手強そうです。がんばって登りましょう。費用：5000円（記念品代を含む）

〔第１１２７回例会〕

北山の峠　（R）

日　　時　5月9日（月）　7.30　三条京阪京都バスのりば集合

コ　ー　ス　雲ヶ畑…狼峠…石仏峠…祖父谷峠…飯森山…天童山…茶呑峠…小野郷

担 当 者　横大路　井上国雄（TEL 601ー9391）　申込み〆切 7日（土）

〔第１１２８回例会〕　南ア

大無間山　（R）

日　　時　5月13日（金）～15日（日）　京都駅八条口　7時集合

担 当 者　本局　坂井久光（TEL 629）　1/5万図「井川」

備　　考　一等三角点研究会と共催で登ります。コース等くわしいことは担当者まで

〔第１１２９回例会〕　ザイル祭

芦屋ロックガーデン　（T）

日　　時　5月22日（日）　阪急　芦屋川駅前　10時集合

担 当 者　九条第二　鷲見敏一

備　　考　久しぶりに岩登りをやりたいと思います。初心者の方もどしどし参加して下さい。

〔第１１３０回例会〕　鈴　鹿

釈　迦　岳　　(R)

日　　時　6月2日(木)　　5.30　横大路車庫集合

コ　ー　ス　京都東ー八日市ー神崎川発電所…センコウ谷…中峠…釈迦ケ岳…中峠…八風峠…三池…中峠…センコウ谷

担 当 者　横大路　大西純一(TEL601ー9391)　申込み〆切　25日(水)

今　月　の　集　会

日　　時　5月18日　(水)　　19時から　　下鴨寮

議　　題　1.　例会(№1124～1128)　部員動静　報告

2.　6月例会、　集会について

3.　連絡事項　その他　　ー当番　八条支部ー

例　会　企　画

宮　後　正　樹

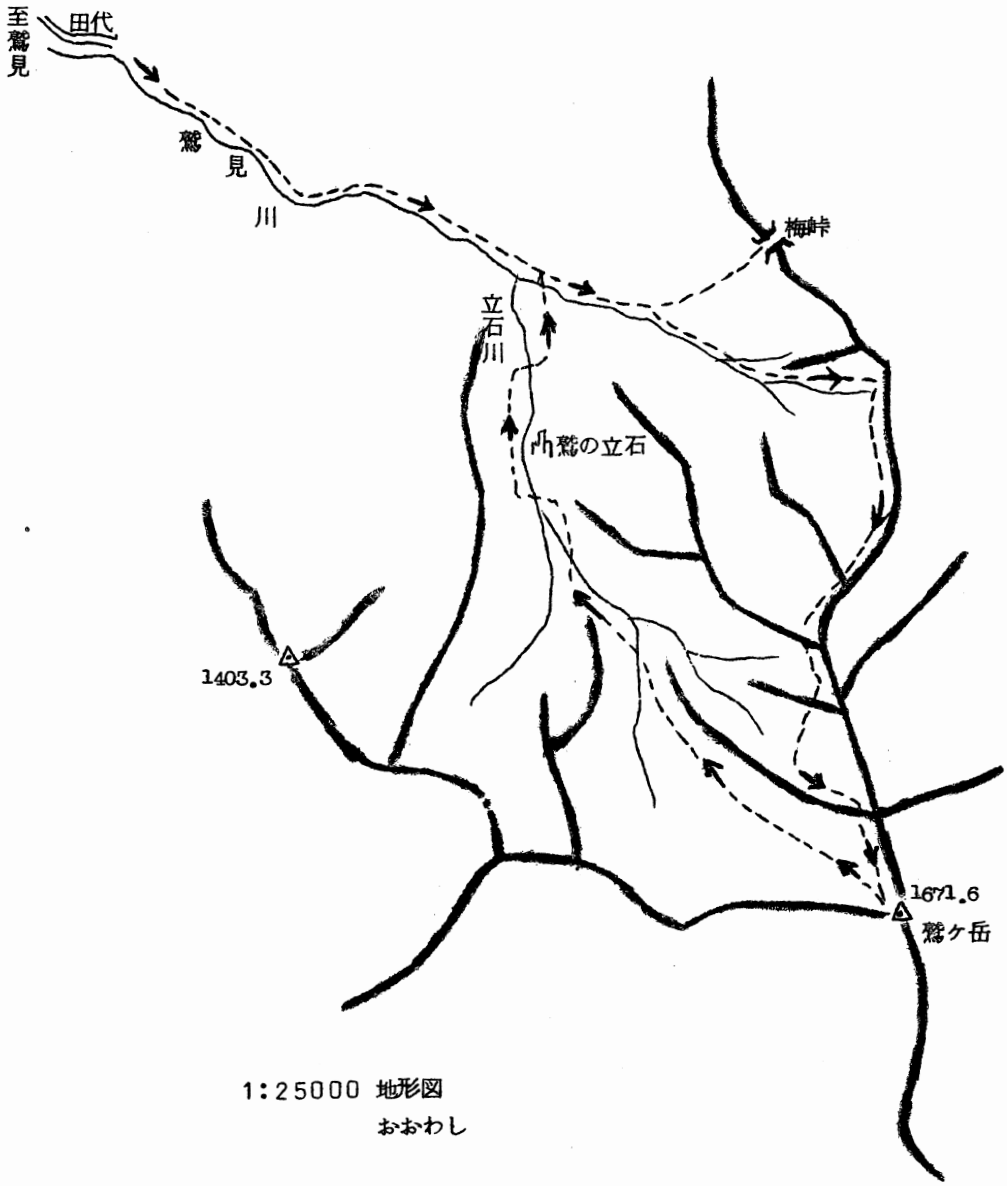
何事も最初がカンジンである。山行きの企画、プランニングには大なり小なり計画、準備の段階を経て実施があり、その後に反省と報告が行われてはじめて一つの山行が完了するのである。

しっかりとした十分な計画、準備があってこそその山行は十分満足された楽しい山行となろう。思いつきや出来ごころでふらっと急に山へ出かける人もあるようだが、それらは大低の場合単独行であって気まゝな山行である。少なくとも山岳会の例会として企画し発表し実施する以上は、例え参加者がなく結果として単独行になったとしてもそれなりの計画、準備が必要である。

何も大そうなことを云うわけではないが、例会企画の第一段階である計画の段階では先ず山を選ぶにしてもルートを考え次の準備段階に移るにしても何故その例会を企画したのかという目的をはっきりさせておくことが大切である。それはまた参加者に登行意欲を持たせ例会企画にも進んで参画し実行して行く原動力にもなるのである。目的がはっきりしない山行は参加者自身にとっても戸惑いがあり積極的なとり組は出来ずどうしてよいのか分らない。つまり登山の目的によって計画や準備の仕方も変ってくるし心構えも変るのである。

そこでこれらの指示や動機づけは一体誰がどのようにしてやればよいのか。それは例会担当とかリーダーを決めればその者がはっきりとした線を打ち出して一定の機関、例えば前月のリーダー会議や集会に発表して賛同を得て会としての例会にすることを皆んなが認め合って初めて例会企画が

鷲ケ岳概念図



1:25000 地形図
おおわし

んのキャリア、武田氏のベテラン、小生の雪ダルマ、思い思いのシュプールをつけ、林道まで滑る。坂井氏は先行してもう姿も見えない。「歩く方が早い」と又、おこられそうだ。林道まで下ると稜線での吹雪が嘘のように風も無く、雪も止んでいる。一ぷくタバコに火をつけて朝の雪も溶け、地肌の出た林道を宿へ帰る。勤務の都合で帰京する坂井氏を見送り、残った4名で夕方小雨の大日岳スキー場で小1時間遊び悪天候の日曜日は終った。夜、食卓を囲みながらのミーテング。当初予定していた二日目の行動、大日岳スキー登山を変更し、担当者の我儘を通してもらって、晴天なら再度鷲ケ岳へ登る事を提案し了解を得る。

3月28日　起床　雲なし　快晴　ヤッホー!! 昨夜の疲れも吹飛び、早く宿を飛出したい気持だ。今日軽装で早く頂上へ登ろうという事で出発。昨日歩いているので引返地点迄は2時間で登る。昨日の吹雪が嘘の様に、雲一つない空、オーバヤッケを着たあの寒さから、今日は一枚脱がねば暑い。坂井氏が帰られたの残念である。五人一諸に行動したかったが宮仕えのつらさ、もっと山はのんびりとした気持で来たいものだと思う。猟師が登ったのか、今朝登ったと思われる足跡が、引返した地点より尾根筋に続いている。吹雪で見えなかった尾根も、今日はハッキリとそれもサングラスをかけねば目がいたい程だ。引返地点より15分、地図上では尾根筋を行けばピークに出られるが、足跡はピークの手前のクラの様になった所をトラバースしている。斜面に点々とついた足跡は、鷲ケ岳本峰より、西に張り出した尾を越えてなおも続いている。尾根通しに進んでも行けそうだが、我々もトラバースし本峰の見える広く開けた所に出る。〝奥美濃〟によるとここが横倉なのだろう。桜の花が咲いた様に、木々は樹氷をつけ、それらが陽に照らされ見事な雪の祭典を広げている。山ならではの景色である。一休みして腰を下すのにはもってこいの場所だ。レモン、クラッカーで最後の登りに備える。目の前には本峰が見えるが、まだ高度差200m近くありそうだ。アイゼンを着けたが陽当りではダンゴになる。樹氷が溶け出し、パラパラと歩く周囲に落ちてくる。雪面に幾可学的な模様を描く。急登に一汗流す。最後の登り、チョコレートを一口ほおばり雪庇の張出した尾を慎重に登る。11時30分頂上に立つ。乾杯!! 展望良し。奥美濃の山々、荒糸岳、白山、大日岳、御岳…360°来てよかった。皆んな同じ言葉だ。頂上での時間のたつのはいつもながら早い。地図を広げ、あっちの山は何だ、こっちの山はこれだと言っている内、1時間過ぎた。いつまでもいたいが出発。「オーバズボンはこう」スキー替りに尻セードだ。先程登った急登を、今度はピークから一気に谷筋を滑る。トップの武田氏がスピードを出してみるみる間に小さくなる。間隔をあけて順番にゴー。ナイロン製のズボンは尻が熱いぐらいスピードが出る。5分程で快適な尻セードは終ったが、振り返るともう頂上は遠い。帰路は谷筋に沿って下る。地形が複雑で、伊藤氏に見せてもらったレポートによるヒノ口谷、大ノマ谷、ホウノ木谷、菅原谷は、ほぼこの谷だろうという事で確認する迄致らなかった。又〝鷲の夫婦岩〟と名付けられたのは現在〝ズ鷲の立石〟と言われているものではないかと思う。1966年3月27日に登られてから、今日1977年3月28日という事は、諺で言えば10年一昔前にもなる。その当時なかった道も、現在は立石川に沿って林道が出来ている。結局、我々は下って見て初めてこの林道が確認出来たのである。登路、右手に分岐した林道というのがこの道だ。頂上より1時間でこの林道分岐点へ出た。鼻歌まじりで車の止めてあった

放牧場迄はすぐであった。晴天に念願の鷲ケ岳登山を良きパーティにめぐまれ楽しかった山行を終えた。　参加者　宮後正樹、武田喜久郎、岡本義弘、大槻雅弘、　26.27のみ　坂井久光

コース・タイム

3月26日　名神京都東インターチェンジ14.40－19.00鷲見（民宿りんどう）

3月27日　起床6.20－出発8.00－8.10鷲見放牧場8.15－立石川出合8.35－林道別れ8.45－谷出合休ケイ9.55－稜線10.25－退却11.10－13.30りんどう

3月28日　起床6.10－出発7.40－7.45鷲見放牧場7.50－林道右への道別れ8.15－林道別れ8.30－谷出合8.45－9.20稜線9.30－昨日退却地点9.40－トラバース9.55－10.45休ケイ－11.30鷲ケ岳頂上12.35－13.15林道－林道別れ13.35－14.05車－14.30りんどう－帰京23.00

第1122回例会

木曾駒ヶ岳

横大路　大　西　純　一

前回3月4日～5日は悪天候と勤務の都合により半数が登頂出来なかったので今回の山行になった。5時前に横大路車庫に集合。一台の車にて一路木曾駒へと向う。天気は下り坂という事で今にも雨がふりそうである。中央自動車道に入ってから少しパラついたがすぐやんでしまった。7時前に菅の台に着き、8時すぎのバスにてシラビ平へ向う。車中バスガイドさんが色々と案内してくれた。この時分には少し青空も見えて来た。シラビ平に着くとロープウエイに連絡しているので、それに乗り継ぎ千畳敷へと向う。千畳敷に着き宿泊の手続をし、出発の用意をして外へ出て見るとガスが出ていて全々視界がない。前回悪天候の中を駒ケ岳まで登ってこられた山下氏の案内でなんとか斜面に取り付く。時々少しではあるが、ガスが晴れるのでその間に方向をさがすがなかなか進まない。それでも何んとか尾根（乗越浄土）まで登る事が出来た。約一時間二十分程かかった。そこからは尾根づたいなので視界はないが、スムーズに行けそうである。中岳は側方を廻らずに山頂をこえて行く事にする。駒ケ岳頂上で例によってバンザイ三唱、ビールでカンパイをする。頂上には神社がまつってあるが雪の中にうもれている。写真を少し写して10分程で下山に向う。中岳までもどってくると突然ガスが晴れて今登って来た駒ケ岳、前方の宝剣岳、三ノ沢岳等が手に取るように良く見える。すばらしいながめでしばらく全員が景色に見とれていた。又各人好きなポーズで写真もパチリ！　天候が良くなったので、あす登ろうと思う宝剣岳を偵察に行く事にする。宝剣の少し手前の尾根はとてもするどく西の斜面はつるつるである。（ガスでも出ていると、とても行けそうになく、あすの天候しだいにする）乗越浄土から山荘を見ると我々が朝登って来たルートがとても遠回りしているのがよくわかる。15時半頃に山荘に着きスキヤキの用意にとりかかる。一時間程で用意が出来たので全員スキヤキをかこんでビールでカンパイ。今日の駒ケ岳登山について話が

はずむ。そして２０時頃全員ねてしまった。

４月９日　今日は５時起床、そして朝食のウドンを食べて７時半頃に出発しようとして表へ出て見ると雪がふっている。昨夜のうちに２０cm程つもっていた。今日は宝剣岳へ行く予定であったがこの状態では視界も約２０m程しかなく、足場も悪いのでやめる事にする。仕方がないので伊那前岳まで行こうと思い乗越浄土まで登ったが、風がとても強く風速１５mぐらいあると思う。とにかく風の方向に向って歩ける状態ではない。これではどうしようもないので又山荘へ帰る事にする。少し下ってから下方までおしりですべって行く。全員すべっておりたので３０分程で山荘に着いた。今日はもう登れないので１０時のロープウエイに乗る。ロープウエイの中間点ぐらいまでくると雪からみぞれ、やがて雨に変ってしまった。シラビ平に着くと待っているはずのバスが来ていない。係の人に聞くと崖くづれがあってバスが来ないという事である。どうしようかと思っていると、ジープが客を５～６人のせて登って来た。私達は２０分程待って今来たジープで行ける所まで行ってもらう事にした。車で１０分程下ると大きな石がゴロゴロと道へくづれてきている。ジープが通れないので雨の中を我々５人が協力して石を道ばたへよけてジープを通れるようにする。しばらく行くと今度はニホンカモシカが我々の前にすがたをあらわした。運転している人に聞くとこの辺で見るのはめずらしいと言うことである。エサをさがしに来たのであろうか？　さらに１０分程下ると又土砂くずれに出合った。ジープの中につるはし、スコップ等があったので、さっそく土方さんになって一人が見はり、あとの者が土砂をとりのぞく。何とか通れるようになったのでそこをわたろうとしていると、菅ノ台よりバスが一台我々のためにここまでむかえに来てくれた。雨の中を作業したので上半身ずぶぬれである。菅ノ台に着き、駒ケ根鉱泉につかり身体をあたためる。ここで昼食をしてから帰洛した。

参加者　清水　譲、　井上国雄、　進藤義治、　山下栄次、　大西純一

コース・タイム

4／8	南インター発	5.00	車	中岳着	12.30	
	菅ノ台着	8.00		〃発	12.50	
	〃　発	8.12	バス	駒ケ岳着	13.30	
	シラビ平着	8.55		〃　発	13.50	
	〃　発	9.08	ロープウエイ	中岳着	14.35	
	千畳敷着	9.15		〃　発	14.50	
	〃　発	10.25		山荘着	15.30	
	乗越浄土	11.40				
4／9	起　床	5.00		千畳敷発	10.13	ロープウエイ
	朝　食	6.00		しらび平着	10.25	
	山荘発	7.40		〃　発	11.00	バス ジープ
	乗越浄土	8.35		菅ノ台着	11.40	
	〃　発	8.40		〃　発	13.30	車
	山荘着	9.15		京都着	18.00	

第１１２３回例会

長子山(△671.4)と宮山(△732.9)

営業課　翠　峰

４月１０日（日）国鉄バス北野バス停より周山行初発に乗車。今回も参加者なく単独行となる。周山で上黒田行バスに乗換えて山国陵前で下車。道を戻って橋を渡り林町の竹藪に入る山道にコースをとる。此の道は５万分の１四ッ谷には載ってなくて２万５千分の１の上弓削に載っている道で後で発見して最初の祖父谷よりの登路と変更したのである。良い道ですぐ左に稲荷社への道（附近に八幡さんや山の神もあった）を分岐するがどんどん登って左手に谷を見下ろすようになると休小屋があり、其処から一際頭を抜出した長子山（参角点標名）が見える。附近で一番高いから長子（長男）と付けたものか、形が瓶子に似て飛出しているから銘名したのか知らんが特長のある山容で早くも見当が付いたのが嬉しかった。天気は良し、道端にイワナシが可愛いピンクの小花を咲かせたり、ミヤマカタバミが清純な小花をつけて群り咲いていた。

右手から山道が上って来て尾根が合し、右側に野上町の小野内谷の源頭が望めるようになり、５５４ｍの独標の肩を越えて道は前方の谷へ下って杉林の中で地図通り消えた。

前方の杉林の尾根に取付き笹や灌木の藪をかき分けたり植林の薮を登りつめて本尾根に登ると藪も薮となり、すぐ踏跡が現れてきてピークを二つ越し、一段と急な斜面を登ると頂上の明るい雑木林に三角点が美しく出ていた。最近登ったらしいが附近にあったが、思ったより簡単で祖父谷からも尾根が上って来ていたが、カヤやモミ混りの雑木で下は植林で伐採中らしく、西側は檜の植林であった。コーヒーを沸かして一休みして下山。バスを待つ間に常照寺を参詣したが、桜は末だ蕾で来週が見頃とのこと。山陵汀で昼食をとりバスで灰屋へ。バス停から橋を渡って戻り、谷沿いの道を入ると間もなく水量の可成ある村の飲水をとっている谷（トロ峠への道のある谷だからトロ谷か）を越え次のフキ谷に道は入って行く。少し登ると杉林の中に小道が分れ赤布が下っていた。此がフキ谷峠の道で急坂をドンドン登ると尾根を右側（トロ谷側）に巻いてトロ峠道丈がはっきりしてフキ谷峠道は部落の入口で聞いたが、荒れていて分岐が判らなくなっている。地図を見て三角点は両谷の分れ尾根にあるのだから、この尾根に取付けばよい訳である。始めは茂っていたが段々藪もおだやかになり踏跡らしいのが現れ、右側が植林で伐採されたりしているが、左側は雑木であった。ピークを越えると頂上で南に７６１の独標が高く聳えて見えた。三角点の周辺は伐られて明るく対空標識に宮Ⅲと書かれてあったが、北に宮部落があるからの銘名か。戦時中は対空監視所があったとか。又コーヒーを沸かして一服。西側は伐採されて明るい坊主山となっていた。少し下ると下黒田や井戸方面が手にとるように見える。申遅れたが前述の長子山でも途中から寺山部落や常照寺が絵の様に見える箇所があった。

伐採後の雑木を段状に積んである処を縫って尾根を少し下ると踏跡に出て辿ると水場に出て思

いがけない程の水量があり、下は３０m程の滝となり急崖をなしていた。左手の支尾根の急斜を下って杉林に入り、滝の下流に出ると踏跡があり辿るとフキ谷峠からの道と合して木馬道を下った。可成りの水量のある谷で、至る処滝や釜を作って流れ下っていた。道端にイカリ草が一株美しく咲いており可憐であった。下黒田の発電所へ下り野山バス停で後2時間待たねばバスの便がないので歩いていると運よく親切な車が拾ってくれて常盤迄ヒッチ出来た。

コース・タイム　7.00 北野白梅町　8.05～8.10 周山　8.24 山国陵前　8.47 右側よりの道 9.10～9.15 休　9.32～10.00 長子山　10.38 辻　10.46 休小屋　10.51～10.53 お社　11.00～12.59 山国陵　13.23～13.30 灰屋　13.35 辻　14.23～14.40 宮山　14.53 水場　15.05 岩屋　15.10 道　15.50 野山バス停　16.10 ヒッチ　17.15 常盤

二上山・葛城高原

4月3日（日）　晴　　畑　　照　人

肌寒い朝だが天気はよろしい。葛城高原の山なみにとりつかれて、チャンスを待っていた。今が一番よい時季と判断して決行する。二上山は前に登ったから割愛してもよいのだが、これには一寸した訳ありでと申すのははずかし乍らカメラの失敗で写真全部パーになったのでもう一度記録したかったからである。今日は桜も見頃、鶯の美声も聞えて最高である。当麻寺も塔と桜の図柄が大変よろしい。先づ一枚とる。祐泉寺から二上山（474.2m）へは２つのルートがあり、今日は前のコースとは反対の直接峯部へ出る方を行く。水の豊富なコースだ。雌岳三角点（雄岳の方が高いのだが三角点なし）で登頂記念に１枚と葛城高原の遠望をとる。下りは少し廻り道だが鹿谷寺跡を見学する。「鹿谷寺跡（ろくたにじ。またはろくやじ）雌岳の南、竹ノ内街道にいたる山腹にあり。凝灰岩をくりぬいて作った十三重塔や、三体仏を彫った巨岩があるほか、付近には堅岩、抱岩、覗岩が点在している。推古天皇の時、聖徳太子の弟君、麻呂子皇子が建立された禅林院の跡という。」大阪府教育委員会の説明板より。こゝにも数は少ないが桜花も風情を添えていて今が見頃であった。竹ノ内峠附近は、以前はもっと峠らしい所であったであろうと思うが、今は道が拡張され末舗装であるため自動車が砂煙を上げて走る有様である。役の行者による御霊水のある祠を少し過ぎた所が峠でこゝから縦走コースが始まるのだ。先づ最初は平石峠を目標に歩く。無線塔関係の車輛が入る為の車道があり、暫らくそれに従って歩く。途中で平石峠への分岐点があるのだが、注意して見ないとそのまゝ車道の方へ行ってしまう。道のかたすみに蒲鉾板位の小さな板に平石峠への矢印が書いてあった。約３０分で見晴らしのよい所へ出たので一服。昆虫採集の人に出合うが少し時季が早かったとのこと。矢張り花が咲かないと虫も少ないという。平石峠へは１１時２０分着、見晴らし

は全然なし。大阪の平石へ出る道なのでこの名がある。当麻への道と縦走路との四辻となっていて皆こゝで一服するらしく、塵芥が山程あった。昼食をとり出発。丸太で作った急な階段状の道を上る。実はこの階段状の道がこれから先随所に現われて、私を非常に疲れさせた憎い奴である。道は広くて歩きよい。河内平野や大和平野を望見し乍らの景色もよろしい。岩橋山（658.8m）へ着き三角点はどこらへんかいなと注意してたらベンチの足許にあった。岩橋山附近は謡曲「葛城」の中にも取り入れられた伝説があり次の様なものである。「むかし役小角、葛城の峰より金御岳（かねのみたけ、大峰山のこと）に通わんがため、石橋を造らんと思い、之を諸神に命ぜしに、一言主は容貌の醜を恥じ、夜のみ待ち給ひしより、橋は功を竣えずして小角の思に触れ、ために呪縛して深谷に監置せられ給へり。」現在は名石巡りのコースが開かれていて、昔の巨岩や奇岩が散在している。私も一度巡りたいと思う。持尾辻から一本松までは檜の美林の中を行く非常に気持のよい道である。此所まで来ると行き会う人が多くなる。葛城山が近くなった為であろう。眺望のよい場所にはベンチが作ってある。風が少し強いようだが天気は上々だ。階段状の丸太に苦労しながらやっと葛城山（959.7m）へたどり着く。冬場はスキー場になるだけあって広いもんだ。三角点で記念写真をとってもらう。風が強くて三脚が使用出来ないから。流石に雄大な眺めである。春がすみで少し見にくいのも仕方あるまい。南面に金剛山の雄姿が望まれる。もう今日は此所でおしまいにしよう。時に15時30分。尚、二上山からの縦走者は少なく、葛城山からの下りの方が楽なのであろうと思う。途中で出会った人も、反対コースの様なことを云っていた。

コース・タイム　当麻寺 8.08 ―教部 9.30 ―二上山 9.45 ―竹ノ内峠 10.35 ―平石峠着 11.20 ～ 11.45 ―岩橋山 12.40 ―一本松 13.50 ―葛城山頂 15.20 ―ロープウエイ― 16.00

謡曲の関係地2ケ所と三角点3点を無事完走した事で今日は大変よかった。尚階段の道は約8000段あったと思う。距離は長くはないが上り下りが激しいので、一寸びっくりしたよ。まだまだ鍛練せにゃあかん。以上が本日の感想と反省であります。

龍のつく山と名山と　(2)

伊　藤　潤　治

午後5時32分、茜に映えて壮厳な処女雪をまとう竜頭の山頂に達した。そこには清々しい雪肌の平らに一尺ばかりの標杭がたった一本突っ立っている実に聖なる頂きがあった。その標杭下部の積雪を掘っていくと、三角点はあった。けれどやがて掘りかえして無惨に傷つけ醜くい雪肌が目についた。何とも愚かしい事をしたと、おのれの行為を恥かしく思った。あの清々しい頂上の積雪はかき乱さずにそのまんにそっと置いて下山してくるべきだったと悔まれてならない。

この山地の冬は1970年に三瓶山、△1126m（三瓶山）、白木山△890m（可部）、堂床山△860m（加計）、犬伏山△791m（八重）を経験しているが、それは一月中旬であって二月で

はなかった。そのためだろうかこの豊富な積雪量は予想できなかった。また考えると年頭に訪れた「竜五・蛇円・白旗」の場合まったく積雪を踏んでいない。その体験が（瀬戸内の積雪が淡い事に気づかず）この山地の冬をかなり甘く評価していた。つまり軽装備である。

この度の計画は（図表を参照されたい）、竜頭（加計）・臥竜（木都賀）・竜王（安岡）・ダツヤ（山口）・竜門（長門峡）・十種（徳佐中）だが、臥竜山（△1223m）は竜頭より緯度、標高とも加わり更に深い積雪を覚悟せねばならない。それと車行の所要時間にも誤算が大きく、臥竜をやれる余裕をなくしていた。従って臥竜を割愛の上竜王山へ向うことになったが、臥竜をめざしたい心は厚い灰色のはるか彼方の臥竜に走っていた。この二月十二日の行動は太田川畔まで。京都4時50分ー津山I・C 8時ー三原駅前12時30分ー広島駅前14時20分ー竜頭平ー竜頭山17時32分ー同40分ー竜頭平18時20分ー太田川畔19時25分。

二月十三日　晴天　張切った早発である。山陰本線をまたいで吉見へ向っていくと、芙蓉の秀麗を備えた山がにこやかな微笑をもって迎えてくれた。しかし美しい器量であるのに山名はなぜか容姿に不似合の鬼ケ城（△619.5m）と厳しい。なお、この山がはるばる尋ね来た山であったら、どんなに驚喜していたことだろう。吉見に竜王神社がある。このお宮と竜王山のかかわりを「下関神社誌」の抄録で説明にかえる。竜王神社　吉見　吉見下　祭神　玉依姫命、綿津見、住吉荒魂大神、息長足姫命、誉田和気命、天津児屋根命、元乳母屋神社と大綿津見神社とを大正六年五月七日合併奉祀し竜王神社とした。乳母屋神社は第八代孝元天皇の時鎮座され、第二十七代安閑天皇の時現在の地に奉遷され、元明天皇の時社殿を再建しのち住吉神社の摂社となった。長門国第三の鎮守といわれた。これは康暦元年十一月大内義弘が、吉見郷を住吉神社に寄進した事によったのであろう。又応永八年九月には足利義満はこの地を石清水に寄進したという。祭神の玉依姫は、うがやふきあえずの尊の乳母として乳を授けた神ということから乳不足の婦人の参拝が多かった。また大綿津見神社は第十二代景行天皇の二十年二月に鎮座、上中下の三宮に祀った。現在背後の竜王山頂にも社殿があり、旱天に雨を祈る神とされている。例祭　十月五日　御忌祭（十二月七日〜十五日）この間神職は社籠りを行い、十三日夜半は御衣替神事とし十五日正午をもって終る。花踊り　古来より旱には雨乞祈願が行われているが更に雨のない時には雨乞のため、花踊りを奉納する。記録によれば寛政七年から昭和十四年の間約二十五回行われている。この宮は中村、舟越、尾袋、里の四部落を氏子とし、花踊り奉納に当っては尾袋、里が一組、その踊りの勇壮な所から「男花」といい、一方中村、舟越の一組は優雅な所から「女花」と呼んでいる。この男花、女花の行列、囃方、踊の順序や種類は古来からの定がある。男花の歌は「庭ほめ口上」「謡」「おどり歌」「六ちようし歌」「ぬけはち」「才手」等、女花は「謡」「庭ひろめ歌」「六ちようし歌」「七つこひめろくちようし歌」「しげよしろくちようし歌」「せんまつろくちようし歌」「花の千代女ろくちようし歌」「つばくら踊」「花よく」等がある。

「附記」　有富の竜王さんの雨乞　有富の竜王社は古い大甕が神体で雨乞の時には之れを担いで綾羅木の浜へ御神幸が行われるが常に効顕があるという。この大甕を一名ハンドサマという。

或年百姓新右エ門がこの壺を拾って持帰り、酒を造った所ワンワンと鳴り出したので驚いて投出

して破ってしまった。これを聞いた村人達は天から降った物を粗末にしてはと破片を拾い集めて竜王山の頂上に祀ったという。竜王社は別に社殿はなく、三個の大きい立石で囲んだ中に神体の須恵の壺形土器があり、その前に平らな石の祭壇があるのみである。

神功皇后が征韓の時、大綿津見社は豊浦宮に在った。皇后は竜王山中の楠をもって船とし、舟楫をも造られたと伝わっている。凱旋の時古宿（現吉見）の浜に上陸され船具陣具の一切を海岸の岩窪に収め戦塵を祓い、海神大綿津見の加護を感謝されたという。

舟越ー舟楫を製した処、又船具陣具を収めた箇所は瀬になり帆柱岩　金岩　筒敷岩等の名が残っている。以上の如くであるが「下関神社誌」の竜王の山頂は上宮（△446m）であり、私の場合は「△613.9m」が頂上であると分れる。しかし中宮、上宮への参拝や竜王山へイキングコースの賑やかな往来があるらしい。生生きと踏みしめられた快い道が上れた。

竜王山の頂上には一等三角点があり、綿津見の宮の山らしい眺望がみなぎっていた。所要時間太田川畔5時15分ー徳山動物園前8時10分ー中国下関I・C10時45分ー吉見11時35分ー竜王山12時54分〜13時15分ー吉見14時ー中国小郡I・C16時40分ー旭村長瀬17時40分。

二月十四日の一。ダツヤ山（△746.3m「山口」）。長瀬の里は去る五日の降雪が融けず、タイヤチェーンを必要とした。積雪量よりも寒気がおそろしく厳しいためである。なお此処はかって吉田寅次郎の唐丸送りが通った道として、松陰街道の名で呼ばれているという。

さてダツヤ山とは泥くさくて面白い名称である。これは所在地「山口県阿武郡旭村大字佐々並字駄艶」の地名がそのまゝ山名となった訳である。従ってダツヤ（駄艶）の意味の解釈は長瀬へ行けばできる。と来てみたが期待は外れた。あれこれ辞書をあさっているけれどダツヤ解釈の糸口はつかめないでいる。しかし尻切れトンボながら色気充分でこんなのがある。「ダッー　炭俵または大きな叺。西は対馬から東北は秋田県までにわたって分布する。一藁縄・蓆などで編んだ叺や炭俵などをダッと呼ぶ地は関東北部および中国、四国、九州にまで行きわたっている。（日本民俗語彙第二巻、871頁より）」うまく御縁とつながってもらえないだろうか。片仮名表示の山名は語釈が難かしいが妙にたのしい。ダツヤを登る。この志が長瀬の里人のお気に召したのか、私に見物客（陣中見舞と申すべきかも知れない）があった。おかげでダツヤが笹竹に披われた山で寄りつき難い。地籍調査の伐分けが利用できそう。ルートは夏木原から谷道を北行する等、いろいろ知ることができた。

8時30分、杉木立の影に石仏群のならぶ夏木原（道路は山口市とつなぐ可く延長工事中）につく。可愛い北流をまたぎショウゲンの山裾をいくと、小吹峠からの東流に会う。里人のすすめてくれた道を帰路のルートにきめた私は、小吹峠の道を辿り、ダツヤ山が北望一ぱいに横たわる。660（コンター）メートルに上った。そこには矢張り大観があって、ダツヤの巨大さは予期してきた姿であったが、"ダツヤに登っても「ほうべん」には登らぬのか。と。里人から私はセンスを疑われた。その山鳳翮の「端麗」には驚目させられた。たしかに噂にたがわぬ名山だが「鳳（ほうおう）」の「翮（とぶ）」とは、よくも命名したものであると、すっかり感心してしまう。

輝やく朝日を浴びて、一歩一歩靴を雪にもぐらせて行く内に踏み破る足音が（〝潤治　万歳〟・潤治　万歳〟）と慶祝の声のように聞えてきてまことに痛快。ありがたいと思った。そして9時５５分、赤白棒（測量に使用する）が積雪を突いてしやんと立つダツヤの山頂につく。三角点を堀り出す儀式は、高木志茂子さんにもらって久しい。折たたみ式円尭を封切っておごそかに積雪を除けた。

甚だ「ぼうよう」としたこの山に登って私はふと自分の孫の一人でこの子は大器晩成の質であると成長をたのしみにしている「ちび」を思い出す。このダツヤの山頂ではその孫の大成を祈ってやることにした。孫の名は「タツヤ」という。１０時２０分ダツヤ山頂辞去ー夏木原１１時１５分ー国道262号湯の川第一大橋１１時４５分。

二月十四日の二　竜門岳（６８８．４m　長門峡）　この山「日本山岳志」は、ー竜門山、別称竜文山。周防国吉敷郡、長門国阿武郡ニ跨ル。吉敷郡宮野村大字宮野上字杖坂ヨリ二十三町ニシテ其山頂ニ達ス。標高二千二百七十二尺。ーと述べている。この登路「杖坂」の名称（年齢の故か）に心ひかれて地形図をみると、杖坂からは惜しくも国道262号が横断していてがっかり。そのかわり阿東町見付の林道をみつけた。しかし杖坂は何か知りたく山口市へ。阿東町へも、竜門登頂に見付林道のコースは是か非か。それと眺望的山名に惚れこみ物見ケ岳（△７４５．６m）の案内を乞うことにした。阿東町から「阿東町管内図その二」図へ「町道見付線ー山道・所要時間約二時間」「国道262号からは登山路はありませんが、登るとすれば造林地の中を登れば登山できる」「物見ケ岳には橋本から山道　所要時間往復約三時間」等　登頂ルートを朱線で示したもの。

山口市も「山口市管内図」面へ　阿東町の如く。一、防長交通（小郡駅ー津和野）中郷。二、防長交通（山口ー萩）、小木原等登頂コースを記入したものと。「ふるさとの山々ー２０ー（1976年７月１７日）」の次の如き竜王山紹介をめぐまれた。ー山口市街地から木戸山ろくを通って萩にぬける国道262号は、以前の谷沿いの旧道に比べるとまったく想像もできないほど快適なドライブウエーになった。この道が木戸山トンネルの手前で国道九号と分岐して北西に向かうとき、北面に見えるのが竜門岳。しかしドライブウエーからは、その山容の一部がわずかに見える程度。ふっくらとした山頂付近の姿が見えるのは東側にあたる徳地町の白石山、真田ケ岳一帯からだ。

山口市　阿東町　旭村の境界にある。藩制時代の史料にはこの山が十文岳山（防長風土注進案）十門山（防長地下上申）、十文岳（山口県新地図）などの名前が付けられていて、当時は四方八方から地理を見分ける重要な指標となっていたことがうかがえる。ドライブウエーがすぐ近くを通過しながら、山頂一帯の様子は意外と知られていない。ゆるやかな斜面はクマザサにびっしりおおわれ、北側は中腹で急角度に落ち込んでから再び見事な尾根のカーブが続く。十戸山トンネルから八丁越までは尾根、沢のいたるところから登れるが登山者もなくはっきりした道はない。適当にヤブをかき分けて登るとクマザサ地帯に入る。

山頂からの展望は申し分ない。とくに眼下のゆるやかな起伏を前景にして、南面には鳳翩（ほうべん）山、東西には白石山、狗留孫山、真田ケ岳、遠くには石ケ岳、金峰山、北面は高羽山、物見岳、十種ケ峰の山並みが続く。この山の楽しみは上り下りにいろいろなコースを選べること。八丁

越あたりから南面を登って、南東にう回して木戸山（542m）まで縦走するのもいい。北の尾根を見付峠あたりまで下るコースは山頂を振り返りながらの忘れがたい道である。（周南勤労者山の会事務局長、安倍正道）ー。以上この転記をもってご協力への謝辞にかえたい。結局「杖坂」はものにできなかった。12時5分、見付林道（阿東町）に申し訳ないと思ったが、小木原から竜門に向う。はじめ道はさっぱりとしていたが、丘稜に上るとこまかい尾根が岐れ、いい気分でいると測量調査の伐分けらしい小尾根の道にのせられ、曲るべきを直進し、直進すべきに曲っていたり、次は二つほど上り下りがあり、さまざまの歓迎アーチや、背後から懸命に〝この絶景（鳳翩・ダツヤ）を御覧じろ〟と愛想よくツル草どもに引留められたり、やがては小動物の足跡さえもとどめぬ処女雪帯等、たいくつさせぬもてなしがあった。

広くて平らな山頂に上ると、思いがけない造林と積雪におおわれ、始末の悪い景色にみえた。ところが林上わづかに立つヤグラの先端を見当て、大手柄のようにうれしかった。13時ちようど、積雪厚いヤグラの前へつく。おかげで三角点にめでたくごあいさつできた。私はこういう山が好きで忘れられない。

ここでの眺望は「ふるさとの山々」に詳細の如く感激的な大観であった。しかし青空の彼方に光る白い峰、それは氷壁をよそった衝激的な立姿であった。13時20分、あの峰（十種ケ峰）に登らねばならぬと、（私の体は憑きものがしたらしい）急ぎ下山につく。14時ー14時25分小木原を発つ。

二月十四日の三、十種ケ峰（△989.2m「徳佐中」）　竜門岳での展望に十種ケ峰をみそめた。それで次に登る筈であった物見ケ岳の予定を拾てたが、その物見ケ岳の裾を通った時は気がひけてならなかった。

左前方の格好のいい山が車を停めさす。大蔵ケ岳（△834.4m）である。怪やしいのはこの大蔵なる巨軀の山に雪がみられないことだ。それによって判断するなれば、十種ケ峰と見立たないあの峰はもっとはるか遠い存在であるかも。そんなことなら、物見ケ岳をおとなしく登って帰るべきであったのだが等、思いはちょっぴり後悔めく。十種ケ峰を登らにゃ気合は厳と入っていても、不用意な行であるためさ細なことにも不安が色にでてしまう。徳佐へ到着して白い峰がはっきり十種ケ峰ときまったが、果たして「あれが」登れるのか私は頂上を見ておびえた。

しばらく見合っている間に登れる「自信」が湧いてきたし、やがて聞いてみるとほぼ五合目に「山口県十種ケ峰青少年野外活動センター」がある。十種ケ峰は車道で八合目まで位い上れる。そういう夢のような結構でうまい情報であった。南面でもあれだけ雪白い十種ケ峰だからその北面の積雪量は（旭村長瀬での如く）山裾まで及んでいる筈だが、「野外センター」への車道は除雪されているというから、豪勢の極みである。しかし半信半疑ではあった。

15時、国道9号に岐れ、315号に入っていくと「助淵」バス停を通る。ここで見る十種ケ峰は最も鋭角になり、慈母観世音の立姿に思える神々しさを放っていた。「市場」バス停付近にならぶ。「十種ケ峰スキー場」「十種ケ峰青少年野外活動センター」の標識に導かれ、樋ノ本橋を渡っ

て、１５時２７分、山口県十種ケ峰青少年野外活動センター駐車場につく。早速「野外センター事務局」へ来意を伝え登山者名簿の記入提出。時に高度計は５８０ｍを斜す。説明によれば、コースはＡ．Ｂ．Ｃ．Ｄ．が引かれるが、冬期の登山者は皆無であるという。私の場合、日暮をひかえた遅い発足のため最短コースの直登（標高差約４００ｍ）しかない。ついでながら「野外センター」では多数の参加者によって合宿が行われており、幾組ものスキー受講生でにぎわっていた。１５時４０分頂上をめざして発つ。雪面は風雪の影響の外、気温降下という条件も加わり、既に固い。斜面は取り付きからきびしく、杖が随分頼りになってくれたが、ここでもストックを忘れてきた事が悔いねばならなかった。

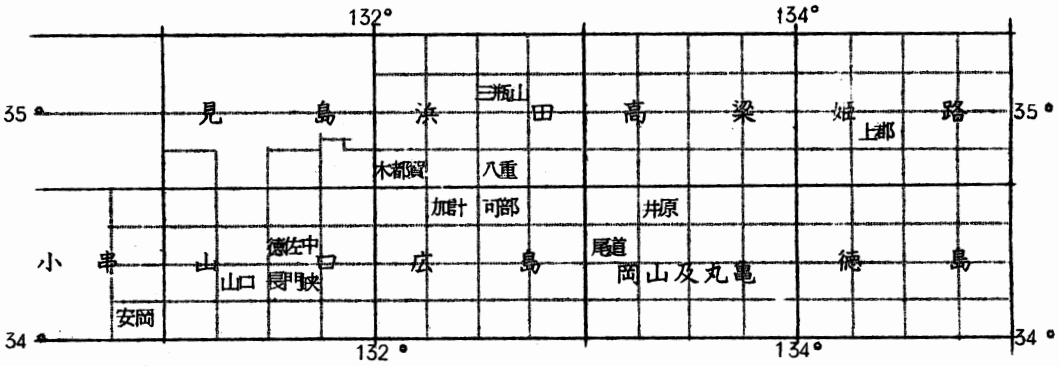
約８０ｍをのぼって、上衣、平袋を脱ぎ、ミカンを喰い、鉈で杖をとがらす。要するに垂幕のようなルートを急登した。証拠　つづいて足が痛みを感じた。つまり力み過ぎ。足から力を抜き、しばらく深呼吸をやりながら歩いて癒す。そうこうする内に斜面に順応できたらしく、何時もの調子にととのった。やがて北壁の大斜面にかかり、ーキップステップをはじき返されー可愛い小笹の群がる山肌の凍結ー等が近頃蔵ったまま手入れしない。ピッケル（ほこりをかぶっていることだろう）を思い出させるやら、四本爪（カンジキ）をたづさえずに訪れた呑気を〝あほやなー。〟と自嘲させられた。北壁の上は、南北に細く切り立つ頂上。三角ヤグラと一等の標石がそこで待っていた。

１６時３４分〝登れたぞ（この登攀、まさによじのぼった）〟の充実感で私の体は破裂するのではないかと思った。眺望は文句をいわせぬ３６０度。寒風にさらされて立つ高度感は凄い。どこか奥美濃のイソクラと似ていた。だが「ダッヤ・竜門」を見定めようとしたら、視力に異状があり映像（眼底血圧反応だろうか）はピンボケしていた。けれど南望に居並ぶ山群は好もしい姿を揃え観あきをさせなかった。われながらよくぞ十種ケ峰によろめけりーとほれぼれ自賛。

１６時５５分、名残りつきず。腹の底から声をしぼって「〝こんな　ええ山しらんわッ〟」を叫けび下山。野外センター１７時２０分ー１７時３０分ー益田市１９時ー出雲市役所前２２時５分ー

４／１５　蒲生峠８時４５分ー夜久野町１１時２０分ー帰着１４時すぎ。以上この山地で随分多くを学んだ。また帰路一服していた冬型気圧配置がもどり、国道９号線は降雪。はからずも有意義な経験をつむ。これが向後の山旅を一層豊かにしてくれるような気がしてならない。

昭和五十二年四月二十一日



白旗山	440m	上郡	姫路 11号	1/4 −1977
蛇円山	546m	井原	岡山及丸亀 9号	1/4 −1977
竜王山	665m	尾道	〃 14号	1/3 −1977
三瓶山	1,126m	三瓶山	浜田 6号	1/9 −1970
犬伏山	791m	八重	〃 8号	1/11−1970
臥竜山	1,223m	木都賀	〃 16号	
白木山	890m	可部	広島 5号	1/10−1970
堂床山	860m	加計	〃 9号	1/10−1970
竜王山	928m	〃		2/12−1977
十種ケ峰	989m	徳佐中	山口 6号	2/14−1977
竜門岳	688m	長門峡	〃 7号	2/14−1977
ダツヤ山	746m	山口	〃 11号	2/14−1977
竜王山	614m	安岡	小串 4号	2/15−1977

例会報告

例会No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1120	スキーツアー 鷲ケ岳	3月26日 〜28日	雪 晴	本局 大槻 雅弘	宮後 正樹 武田喜久郎 岡本 義弘 坂井 久光	念願かなってと言うのか、やっと実行出来たが簡単には登らせてくれない。初日、吹雪。でも2日目登った。 詳細別稿報告
1121 1122	奥美濃 尾ケ平 木曾駒ケ岳	4月 3日 4月 8日 〜9日	晴 晴	名誉部員 伊藤 潤治 横大路 大西 純一	武田喜久郎 他 5名 井上 国雄 進藤 義治 清水 譲 山下 栄次	好天の登りに能郷白山が美しかった。 次号報告 初日、天候に恵まれて快適に駒ケ岳に登る。冬山のすばらしい展望を楽しむ。2日目は雪であった。 詳細別稿報告
1123	長子山と 宮山	4月10日	晴	本局 坂井 久光		詳細別稿報告
1124	桟敷岳と 武奈ケ岳	4月16日 〜17日	曇 晴	本局 宮後 正樹	新宮から13名。伊藤、坂井、畑、加島、武田、妻、子、大槻、山村、楠、王生、津田、三橋、中村、宮後の妻と子、鷲見	前夜のはげしい雷と雨の中を新宮からこられた一行をお迎えし予定を変更し初日は北山、翌日比良の武奈ケ岳に登った。 詳細次号報告

部員動静

〔山　行〕

目的	月日	天候	参加者	記事
野登山と仙ガ岳（鈴鹿）	3月14日	曇時々晴	盛田一郎	野登山の野登寺には人影なく昼なお暗い。三角点を捜し踏む。汚れた残雪があちこち残っていた。さて次に仙鶏尾根を仙が岳めざして進んだが、途中の悪場でビビってしまい中止して引返した。再度山馴れた人と共に登る事とする。
黒頭峯と滝谷山（篠山）	3月26日	晴	〃	黒頭峯二等三角点を踏む三尾山の岩峯がヤブの中からかい間見える。これより西方に606m ピークがあり頂上に滝谷山605.9m と標示があった。東鏡峠より登ったが鋸の刃渡りよろしく小ピークの連続にいささか閉口した。
石戸山（篠山）	3月28日	晴	〃	石戸山一等三角点を踏んで来た。横に無線塔が建ち採石場が三角点近く迄進出している。帰路篠山の藤岡奥より岩屋観音に参拝し裏山の三角点一つ稼いで来た。
入道岳（鈴鹿）	4月　3日	晴	〃	椿神社より入道岳三角点を踏んだ。コースは明瞭で頂上の展望は全くすばらしく鎌や御在所が手にとる様だ。気持のよい山行を楽しんで来た。
愛宕山第9回	4月12日	曇後雨	畑　照人	見事な桜の満開風景の表参道から鶯の声とタンポポの花、すみれの可愛い姿に迎えられて神社へと行く。途中の梅ノ木小屋前の白梅もいま盛りである。ゆっくりとマイペースで神社到着、雨が降り出す。参拝も早々にすまして月輪寺へお参りする。しぐれ桜はまだ咲かぬ。20日以降であるという。去年見逃がしたので今年は是非とも見たいと思う。気温11°であるから下界とは半分以下だ。雨少しきつくふるので急いで元の清滝公園から自転車でかえる。

京都最高のアクアラング用品専門店

○ ウエットスーツ製造直売
○ 潜水器具特別割引販売
○ 現役プロダイバーと全日本潜水連盟公認指導員による
安全確実な潜水指導 （毎週木曜 夜7時ヨリ）

ダイビングプロショップ
エリート

スキューバプロ（米） 京都総代理店
スキューバアポロ 京都総発売元
AMF ポイト（米） 京都総代理店
テクニサブ（伊） 京都総代理店

603 京都市北区堀川通北大路上ル東側 TEL 075（492）8450

PRO SHOP
山とスキー チロル
輸入品とオリジナルの店
AM 12.00～PM 9.00 三条御幸町下
定休日 月曜日（221）6186

HORIIKE KYOTO
まかせて下さい…ネ
山とスキー
のことなら一
☆在庫豊富にとり揃えています
☆山の道具は〝ゼヒ〟御相談下さい
山とスキー専門店
ビッグ ホリイケ
河原町店 上・河原町通丸太町東入
烏丸店 中・烏丸丸太町南下ル東側

昭和52年 5月 1 日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局 内 京交山岳部

テニス用品
スキー用品
山用品

交通局の皆さん
とりあえず　京菱へ
満足のいくようにします

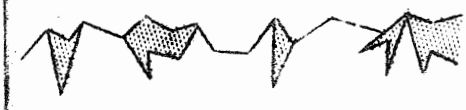
京菱運動具店
下・大宮松原上ル
TEL 801-1331

お馴じみのスポーツ店
一般スポーツ用品・用具
家庭用体操器具
購買証でご利用下さい

KK　西沢スポーツ
中、釜座御池下ル
TEL 221-5739

帆布・滋布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限会社
京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801-5331(代)
名古屋営業所
名古屋市西区児玉町7-30
TEL 521-7541代～4



真の専門店として
好日山荘は前進しております
山とスキー用具の
ことなら御まかせ下さい
確信ある用具を
確信ある価格で・・・・
好日山荘
河原町六角下ル東入
TEL241-1731

この用具の事ならコニシが一番です!
御来店ありがとうございます
山とスキー
そして
海の
レジャースポーツショップ
コニシ
中・二条通河原町西 TEL231-1208

山とスキーの店
京都あるむ
京都市中京区新町三条上ル
☎075-255-0288